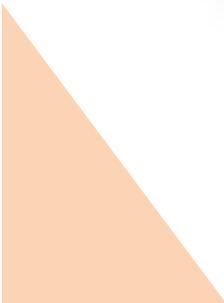

平成29年度

地域政策推進事業 実績報告書



北 海 道

北海道へお寄せいただいた寄附金は、道の各振興局が実施する「地域政策推進事業」の経費に充当しております。

地域政策推進事業は、地域の特性を活かした個性的な地域づくりや地域固有の課題への迅速かつ的確な対応など、地域に根ざした政策を進めるため、市町村などと連携しながら、企画・立案から事業実施まで一貫して各振興局が取り組む事業です。

平成29年度に各地域で行った全ての事業をご紹介します。

■ 地域政策推進事業 H29 事業費計 262,128千円



例えば

後志総合振興局では、グローバル人材育成・確保のため、管内の外資系企業等でのインターンシップ等を実施しています。



渡島総合振興局では、観光客の誘客拡大に向け、青森県や自治体、JR等と連携し、広域周遊観光のPRを行っています。



十勝総合振興局では、バイオマス資源利活用促進のため、高校生を対象に再生可能エネルギー施設の見学等を行っています。



根室振興局では、根室地域の食のブランド力を高めるため、専門家を招へいし、セミナーや個別相談会を実施しています。



空知総合振興局

■「空知地域人材確保推進事業」(地域経済に関連する取組)



空知の経済活力を維持し活性化を図るため、新規学卒者をはじめ、若年者の地元就職及び定着率の向上に取り組みました。

(1) 地元企業就職応援フェア

就職活動に取り組むにあたっての基礎知識や意欲向上のためのセミナー、及び地元企業の合同説明会を開催。

(2) 採用力強化・定着促進研修会

企業側の管理職や人事担当者を対象とし、採用活動におけるノウハウや労働環境の改善方法についての研修会を実施。

■「空知農業振興事業」(地域経済に関連する取組)



空知の基幹産業である「農業」の新しい姿を目指すため、新技術導入や食育など地域活動への支援、将来の農業を支える人材の育成等に取り組みました。

平成29年度は「新たな技術の導入等による生産コストの低減や省力化に向けた実証試験」、「次世代の食育リーダーとなり得る高校生が行う食育活動への支援」、「管内の新規就農の促進と就農者の経営の早期安定を図るための支援」、「精神障害のある方が農業に就労できる仕組みづくりの推進」について取り組みました。

■「北海道空知魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



「空知」の活性化と知名度向上を目的に、管内24市町と空知総合振興局が連携する「北海道空知地域創生協議会」を平成28年5月に設立しました。

平成29年度は、空知の観光や物産等の総合的なプロモーションの実施、交流人口の増加、移住・定住対策の推進を3本柱とし、9月に東京で行われた「代々木フェア」などのイベントへの参加、管内全市町を巡るスタンプラリーの実施、北海道空知移住の本「りくらす」の作成などに取り組みました。

■「空知地域食品ブランド化・ワイン産地づくり強化事業」(地域経済に関連する取組)



空知地域の食のブランド化や空知産ワインの産地基盤づくりを推進するため、生産者支援を行うほか、道内外のイベントでのプロモーションにより知名度向上や販路拡大に取り組みました。

(1) 「空知産ワイン」を産地ブランドとして形成するため、研究機関等と連携して産地特性を把握する調査を行うとともに、生産者向けセミナーや支援制度等の情報を提供。

(2) 首都圏の飲食店における空知食材を使ったメニューを提供するフェアの実施、管内飲食店に空知産ワインの魅力や料理とのマッチングについて理解を深めてもらうセミナーを開催。

空知総合振興局

■「空知産業遺産活用促進事業」(地域経済に関連する取組)



平成20年度に策定した「元気そらち！産炭地域活性化戦略」に基づき、炭鉱遺産群を活用した観光やまちづくりの取組を推進しました。

平成29年度は、「そらち『炭鉱(やま)の記憶』で地域づくり推進会議」を開催し、貴重な炭鉱遺産を活用するための方策の検討・情報交換を行ったほか、多様な主体の参加による提案活動協働実践事業として、赤平コミュニティガイドクラブTANtanとの協働により、札幌市内で赤平の炭鉱施設のPRを行いました。

■「産業遺産シビックプライド醸成事業」(地域経済に関連する取組)



空知地域の炭鉱遺産群をはじめとした産業遺産の魅力ある地域資源を活用し、シビックプライド(地域に住む人々の誇りや自信など)を醸成し、産炭地域の活性化を推進しました。

空知管内のほか、室蘭市や東京の代々木フェア内でパネル展を開催するなど、産炭地域外における認知度向上も図りました。11月には赤平市内で旧住友赤平炭鉱立坑櫓の施設見学会とセミナーを開催し、産業遺産の情報発信を行い、交流人口の増加を図りました。

■「空知型観光まちづくり推進事業」(地域経済に関連する取組)



国内外からの観光客を呼び込むことのできる魅力的な観光地づくりを進めるため、観光情報の発信に取り組みました。

外国人観光客を受入れるための研修会やインバウンド観光振興セミナーを開催したほか、タイ及び台湾の旅行博に参加するとともに現地旅行会社へ訪問し、空知地域の食と観光をPRしました。

また、首都圏メディアへの訪問を行い、管内の観光情報の発信や意見交換を行いました。

■「住民の誇りを取り戻す農村集落再生事業」(地域経済に関連する取組)



新十津川町徳富地区をモデル地区とし、農村集落の維持・活性化に向けて、集落のコミュニティの強化と交流等に取り組みました。

地区住民と新十津川農業高校生で、地元の食材を用いた食づくりに関する検討会や同地区で栽培に取り組んでいる食用ほおずきの栽培方法や栄養価等の魅力について先進地域の栽培者を招いて研修を行ったほか、高校生が食用ほおずきについて研究した結果を発表するなど地区の住民と交流しました。

石狩振興局

■ 「いしかり元気な農村ビルドアップ事業」(地域経済に関連する取組)



大規模農家の経営安定化を通じた農業者の定住や農業後継者の確保、大都市札幌を抱える立地条件を活かした都市農村交流に取り組んでいます。

省力化技術のひとつである「地下かんがい」普及に向けた手引き書作成(3月)や、都市農村交流で重要な役割を果たす女性農業者向け研修(テーマ別に全7回)、バスツアー形式の消費者と生産者交流会(8月)、イベントへの石狩農産物・直売所PRブースの出展(8月)などを行いました。

■ 「「ようこそいしかり」誘客促進事業」(地域経済に関連する取組)



管内観光資源の掘り起こしなど、誘客に向けた企画・検討に当たって、市町村や外国人有識者等で構成する「誘客促進検討会」を設置し、国内外からの誘客促進に取り組んでいます。

平成29年度はSNSを活用した管内観光情報の発信や台湾現地プロモーション、新千歳空港における海外修学旅行生歓迎イベント等を実施しました。

引き続き急増する外国人観光客をはじめ、国内外からの一層の誘客促進に向け、管内の魅力発信に取り組めます。

■ 「地域特性を活かした総合的な少子化対策推進事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



管内の出生率向上に向け、若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりなど少子化対策の取組を進めています。

平成29年度は、高校生による乳幼児ふれあい体験事業や大学生が企画した若い世代を対象としたイベントを行いました。

また、仕事と家庭の両立支援に関し、専門家を講師とした経済団体向け出前研修会や、人事労務担当者による意見交換会を開催したほか、支援機関による情報交換会を実施しました。

■ 「シェフを活用した石狩ブランドづくり事業」(地域経済に関連する取組)



地域のこだわりの生産物(食材・加工品)を石狩ブランドにつなげるため、28年度からシェフ等と生産者との交流促進に取り組んでいます。

シェフに石狩産生産物への理解を深め、その魅力を広くPRしてもらうとともに、シェフから生産者へのアドバイスが生産物の向上につながることから、現地交流会やワークショップ等を開催しました。今後も魅力ある石狩産特産品のPRに取り組めます。

石狩振興局

■ 「いしかり農業福祉パートナー活用事業」(地域経済に関連する取組)



障がい者就労支援施設への農作業一部委託などによる、農業の労働力不足解消と障がい者就労支援を図る取組(農福連携)を進めています。

平成29年度は、農福連携実践農家に対する聞き取り調査(7月)、農業者や関係機関・団体などによる先進地現地調査・意見交換会(10月)、農福連携啓発資材作成のための検討会(1月)、就労継続支援B型事業所職員による農作業体験及び意見交換会(10月)を行いました。

■ 「「さっぽろ圏」若者愛着醸成事業」(地域経済に関連する取組)



若者の地元定着を促進するため、石狩管内の大学生と地域おこし協力隊等との連携による地域活動を通じ、大学生の石狩地域への愛着を醸成する事業を実施しています。

平成29年度は新篠津村において、村の魅力をPRし、交流人口の拡大やイメージアップ、知名度向上を図るため、北海道情報大学の学生が企画から撮影、編集作業までを行い、「手ぶらでキャンプ編」、「グランピング編」、「冬編」の3種類のPR動画を制作しました。

■ 「石狩地域エゾシカ対策事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



道東地域においては個体数・農林被害ともに減少してきているエゾシカですが、管内においては増加傾向にあると推定されています。大都市近郊の新たな生息地とみられる道立自然公園野幌森林公園において、生息状況調査や対策の実施に向けた合意形成に取り組んでいます。

平成29年度は、野幌森林公園を越冬地として利用しているエゾシカによる樹皮剥ぎ被害の実態について、公園内の道有地に調査区を設定し、3月に調査を実施しました。

後志総合振興局

■「家と人の循環によるまちづくり」（その他）



急速に進行する人口減少や高齢化に対応し、定住人口の増加を図るため、市町村や関係団体と連携し、空き家対策や住宅政策などと連動した取組みを実施しました。

道内で唯一の官民連携広域型空き家バンクである「しりべし空き家BANK」の活用促進のため、業務研修会や固定資産税通知時の周知チラシ封入に加え、後志管内に所在する住宅所有者向けの相談会を岩内町で開催するなど、しりべし空き家BANKへの登録件数の増加に向けた取組みを実施しました。

■「しりべし新規ブランド特産農作物拡大プロジェクト事業」（地域経済に関連する取組）



後志管内の地域農業の持続的発展に向けて、良質で収益性の高い特産農産物の生産を拡大する取組を推進しています。

平成29年度は、道内での栽培事例が少ないシャインマスカットの栽培技術（目標品質・出荷基準）の確立に向けて各種調査を実施し、高品質栽培に向けた、今後の栽培マニュアルづくりへの課題の洗い出し等を行いました。新たな産地として、生産戸数や出荷量の拡大に向けて取り組んでいます。

■「ナマコ密漁未然防止対策事業」（地域経済に関連する取組）



依然として横行するナマコの密漁は資源に大きく影響を与えており、漁業者自らが行う増養殖事業や資源管理の取組みを推進するため、危険を回避し地域で取り組むことができる密漁未然防止対策の実施に取り組んでおります。

特に密漁に利用されているとの情報が多い漁港にゲートを設置し一時的に進入を封鎖することで、密漁者による漁港使用の阻止などを行ったほか、管内全体で密漁未然防止対策を強化するため、取組内容の普及推進を図りました。

■「しりべしフードサポート事業」（地域経済に関連する取組）



後志の特産品の管内の消費拡大や道内外への販路拡大・海外市場への販路開拓を図るため、イベント等に合わせた物産販売会や商談会、外国人旅行者向けの試食会等を開催し、観光と一体化したPRを行っています。

ニセコクラシックレース会場で行った物産販売会において、後志管内の特産品を外国人も含め来場者に広くPRできました。

また、商談会や試食会では後志管内の良質な食材を広くPRし、販路拡大を図ることができました。

後志総合振興局

■「後志・西胆振広域観光推進事業」(地域経済に関連する取組)



後志・西胆振地域に新たな国内外からの観光客を誘致するため、地域が連携した取組として、外国人観光客のホスピタリティ向上のための研修や両エリアの共同観光PRを実施しています。

平成29年度は、後志地域でインバウンドについてのセミナーを開催したほか、両エリア共通の日本語・英語各マップを作成し配布、札幌市内や東京都内で共同の観光PRを実施し、さらなる観光客の誘致に取り組みました。

■「新たな交通環境を活かした後志観光の魅力向上事業」(地域経済に関連する取組)



新幹線、クルーズ船、LCC、海外直行便など交通環境が変わるなか、後志地域の優れた資源である「食」やスポーツツーリズムなどを最大限活用して観光誘客、通年型・滞在型観光を推進しています。

後志地域の魅力を多くの人に伝えるため、関西で観光セミナーや、東京都内で地域と連携したプロモーションを実施したほか、サイクリング雑誌や女性誌の編集者を招へいしてメディアを通じたPR、旅行会社等へのセールスコールを行いました。

■「北海道新幹線開業等“しりべし”交流拡大事業」(地域経済に関連する取組)



北海道新幹線の開業効果を後志管内へ広く波及させるため、地域の機運醸成を図るとともに、観光誘客の促進や地域の魅力向上、道南圏等との交通アクセス網の充実・強化に向けた取組を行っています。

「北海道新幹線しりべし協働会議」構成員とともにキャラバン隊を編成し、東北の主要都市である仙台市において新幹線を利用した後志観光のPR活動を実施しました。

■ShiriBeshi グローバル人材育成プラン (地域経済に関連する取組)



外国人観光客にも対応でき、日本や地域のことを伝えられるような「グローバル人材」を地域で育て、中長期的に確保していくことに、取り組んでいます。

具体的には、地元の高校生に地域の魅力を外国人に英語で伝える機会を創る「プレゼン事業」や、都市部の若者らに管内の外資系企業等でのインターンシップや地域交流のプログラムを企画する「ShiriBeshi 留学」の実施により、グローバル人材育成の拠点化によるUIターン人材を増やしていきます。

後志総合振興局

■「しりべし「まち・ひと・しごと」マッチングプラン推進事業」(地域経済に関連する取組)



後志地域では、夏季の農業等の人手不足分野の人材確保対策として、冬季にニセコ周辺地域やキロロ、ルスツなどのリゾート地域で勤務している方々に夏季の仕事や住まいを紹介し、人手不足対策と移住人口の拡大を図る取組を行っています。

平成 29 年度は通年の無料職業紹介と 2 月のジョブフェア (86 名来場) を通じて、142 件の求職問合せがあり、13 名の方に農業やアウトドア産業などの分野で活躍していただきました。

胆振総合振興局

■「いぶり・6次観光推進事業」(地域経済に関連する事業)



胆振が有する「豊富な食材」「産業観光」「胆振四大遺産(洞爺湖有珠山ジオパーク、縄文遺跡群、アイヌ文化、むかわ竜)」等の多種多様な魅力を活用し、国内外からの誘客の促進や交流人口の拡大を推進しています。

胆振地域の魅力を発信するため、国内外の観光客に、胆振の食材の試食会やアイヌ文化の体験イベントなどを開催したほか、小学生を対象に、ジオパーク学習交流会を行い、胆振地域の魅力をPRしました。

■「胆振ものづくり産業活性化推進事業」(地域経済に関連する事業)



胆振地域は、北海道内の工業の中心地であり、優れた技術や製品を持つ「ものづくり企業」が集積しています。若い世代を対象とした現場見学会、体験学習などを行い、次世代を担うものづくりの人材育成や、ものづくり産業の振興に取り組んでいます。

ものづくり分野の展示会に出展したほか、高校生を対象とした企業見学会や技術体験実習などを行い、企業の技術・製品のPRやものづくり企業への職業意識の醸成を図っています。

■「住みたい・訪れたい「いぶり」地域連携事業」(地域経済に関連する事業)



地域創生に向けた取組を推進するため、胆振地域への移住・定住の促進、胆振四大遺産PRなど胆振地域の魅力向上の取組を管内市町と連携して行っています。

首都圏で行われた移住フェアに管内市町と連携して出展したほか、移住相談会の開催、また、ジオパークパネル展やむかわ竜アカデミーin 赤れんがを開催し、首都圏、札幌圏で胆振地域のPRを行いました。

日高振興局

■「ひだか戦略的総合情報発信事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、日高管内の交流人口の増加につなげるため、地域の魅力を体感できる観光プログラムの開発、日高管内の魅力発信に取り組んでいます。

この事業の一環として、とちぎ帯広空港「空の日」記念航空まつりや、さっぽろ雪まつりなどでのポスター展示、観光パンフレットの配布等により、日高への誘客促進に向けた観光情報の発信を行ったほか、地域資源である、馬やジオパークの認知度向上のため、馬文化出前教室や小学生ジオパーク学習交流会

■「馬産地対策・観光推進事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、全国のサラブレッドの約8割を生産する日高地域の知名度向上を図り、観光客の誘引につなげるため、観光資源、多様な食、特産品を道内外へ広く紹介し、馬産地ひだかの魅力発信を行っています。

平成29年度は、門別競馬場(日高町)や札幌競馬場(札幌市)の他、大井競馬場(東京都)、浦和競馬場(埼玉県)において馬産地ひだかをPRしました。

また、日高地域の乗馬施設をまとめた「乗馬マップ」の英語版を作成・配布し、外国人旅行者に対しPRを行いました。

■「農林業被害低減のための鳥獣被害対策事業」(その他)



日高管内のエゾシカによる農林業被害額は減少傾向にあるものの、生息数等は未だ高い水準にあるため、数の低減を図ることが必要です。しかし、軽種馬生産が盛んな日高管内においては、銃による捕獲が困難な地域が存在することから、わなによる捕獲を促進し、エゾシカ個体数の減少と農林業被害の低減を図るための「わな出前講座」を開催しました。

また、ヒグマ対策として、デントコーン畑に侵入したヒグマの追い出し手法の検討なども行っています。

■「日高アイヌ文化魅力発掘事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



日高振興局では、アイヌ文化の魅力を再発掘・再発信に取り組み、『北海道・日高アイヌ文化』を軸とした地域づくりと交流人口増加を目指して、次のことに取り組んでいます。

- 管内各地の施設・行事・伝承等の文化資源を掘り起こし、日高アイヌ文化を紹介する映像の作成に取り組んでいます。
- 関係者等による『検討会』を開催し、地域の宝であるアイヌ文化を活用して交流人口増加を図り、アイヌ文化の価値の再確認を実現するための事業などについて検討しています。

日高振興局

■「日高軽種馬産地活性化推進事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、日高が持つ「全国で有数の馬産地」「温暖少雪な気候風土」「港・空港に近い立地」といった強みを活かし、軽種馬生産の構造改革や馬関連産業の育成、新規就農者の育成・確保に取り組んでいます。

この事業の一環として、新規就農者説明会(新・農業人フェア)への参加や指導農業士研修会、新規就農者トレーナー育成研修の実施など、管内における新規就農者の確保や新規就農者が定着する取組を行いました。

■「日高地域コンブ生産安定対策事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、日高管内の基幹産業であるコンブ漁業の生産量の安定・向上を図るために、新たな生産安定体制の確立や効率的な漁場管理等が重要であることから、漁場環境調査、雑海藻駆除試験、乾燥機普及等機械化に向けた調査等の実証試験に取り組んでいます。

また、実証試験の結果を基に、日高管内の関係機関で構成する「日高地域コンブ生産安定対策会議」を開催し、今後の取組を検討しています。

■「オールひだか魅力発信推進事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、高規格幹線道路日高自動車道日高厚賀 IC 開通効果を高めるため、管内各町や団体と連携して地域の魅力発信に取り組んでいます。

この事業の一環として、札幌の地下歩行空間で管内各町や関係団体と観光物産展を行い、日高の魅力を PR するほか、地域の象徴であるサラブレッド等を開通前の日高厚賀 IC で歩かせる、開通記念パレードを実施するなどの取組を行いました。

渡島総合振興局

■「『北の縄文』魅力発信・ファン拡大推進事業」(地域経済に関連する取組)



世界遺産登録を目指す縄文文化遺産について、地域住民に対し、理解促進やファン拡大を図るためのPR等を実施したほか、関係機関と連携し、観光資源としての活用を促進するための世界遺産登録先行地事例講演会や遺跡視察バスツアーを実施しました。

先行地事例講演会には延べ142名、遺跡視察バスツアーには大学・研究機関関係者、旅客事業者等37名が参加し、観光資源としての活用に向けた取組への機運醸成を図りました。

■「道南地域食振興ネクストステージ事業」(地域経済に関連する取組)



道南地域の食の魅力の更なる向上とブランド力の強化を図るため、優れた産品を産出する一次産業と二次・三次産業の連携による新たな食の魅力を創造するとともに、道南地域商品の海外展開を含めた販路を拡大するための取組を実施しています。

平成29年度は、料理人から食材の評価やアドバイスを受ける青函食材見本市や、食品輸出に関する基礎講座、道南ワインセミナーのほか、道南地域の企業の新商品開発、磨き上げ、販路拡大の各段階を支援する個別相談会、商談会を開催しました。

■「北海道新幹線開業による観光地域づくり推進強化事業」(地域経済に関連する取組)



地域の公共交通の利用促進をテーマに「北海道新幹線二次交通フォーラム」を開催しました。

人口減少やマイカーの普及等によって利用が減少している地域公共交通の課題解決に向け、一般市民や事業者等を対象に、道外から有識者を招いた講演、交通事業者や観光案内所からの情報提供を通じて、利用促進や交通ネットワークの整備について検討しました。

■「北海道新幹線開業による観光地域づくり推進強化事業」(地域経済に関連する取組)



北海道で本州に最も近い立地を活かし、津軽海峡を挟んだ青森県、道南の自治体、JR等と連携し、青森と道南エリアを1つの広域観光エリアとして、観光客の誘客拡大に向けて、広域周遊観光のPRに取り組んでいます。

首都圏や東北エリアなどのJRの主要な駅でステージイベントを行って最新の観光情報を直接伝えたり、観光パンフレットの配付など、積極的な観光キャンペーンを実施しました。

渡島総合振興局

■「渡島スマートアグリ構想推進事業」(地域経済に関連する取組)



人口減少に対応した農業スタイルの確立のため、地域農業の主力である施設園芸及び施設園芸を中心とした複合経営の効率化・高度化を図るため、検討を進めています。

平成29年度は自動換気装置(気温によるビニールの開閉を自動で行う装置)の実証試験を継続するとともに、新たにGPSガイダンスシステムの実証試験も開始し、30年2月には地域の農業者等に先進的な農業技術を紹介するスマートアグリセミナーを開催しました。

■「農と浜のコンパクトツーリズム促進事業」(地域経済に関連する取組)



農山漁村の活性化を図るために、北海道新幹線の開業により増加が見込まれる観光客や教育旅行を対象とした体験観光の受入体制整備や情報発信を行い、周辺農・漁村部への来訪を促進し、交流人口の拡大や体験観光の推進を行っています。

平成29年度は、資源を活かした地域ぐるみによる受入体制に向けた機運を盛り上げるため、地域全体で旅行者を受け入れていくための手法や魅力、教育旅行生等を一次産業の現場で受け入れる意義等について、セミナーを開催しました。

■「みんなですすめる木づかいプロジェクト」(地域経済に関連する取組)



地域材である「道南スギ」の認知度向上と需要拡大を目的とし、地元の建築家やデザイナー等異業種と連携した「木づかいプロジェクト」を中心に、地域材の新たな利用方法の検討や各種イベントを開催し、林業・木材産業への就業促進と地域材の普及PR活動を行っています。

平成29年度は、地域材を活用し函館西部地区の空き屋をリノベーションするデザインコンペの開催や、大学生等を対象にしたオープンスクールや合宿等を実施しています。

■「渡島水産塾～担い手育成推進事業」(地域経済に関連する取組)



水産業へ関心を持つ機会を提供し、基幹産業の担い手確保を図るため、漁業に接する機会が少なかった新規高卒予定者を対象に各種体験を行っています。

平成29年度は、8月及び9月に函館市内高等学校(2校)の生徒を対象に、浮き球作り体験やいかめしづくり体験等を行いました。

参加した生徒からは、「漁業や水産業へ興味を持つことができた」等の前向きな感想が寄せられました。

渡島総合振興局

■「就業・定住促進対策推進事業（農林水分野）」（地域経済に関連する取組）



農林水産業分野では、渡島地域の農林水産業への就業及び定住を推進するため、管内市町と連携を図りながら就業情報や生活情報を一元化し振興局のウェブサイトで広く発信しています。

平成 29 年度は、東京都内で行われた移住フェア等でウェブサイト「おしまぐらし」のPR等を行いました。

■「就業・定住促進対策事業（医療介護福祉分野）」（地域経済に関連する取組）



渡島地域への医療介護福祉分野への就業及び定住を推進するため、北斗市及び北斗市内の社会福祉法人と連携し、首都圏在住者を対象とした就業体験モニターツアーを実施しています。福祉系専門学校等へのパンフレットの配布やホームページによるツアー参加者の募集を行い、平成 29 年度は 2 名の応募がありました。

■「おしま交流人口拡大促進事業（インバウンド）」（地域経済に関連する取組）



インバウンドの受入拡大に向けて、外国人観光客の方々がりピーターになっていただけるよう、様々な機会を活用して道南の「自然」「文化」「歴史」「食」の魅力について、「実体験」を通じて知っていただく機会を設けています。

多くの外国人観光客の方々でにぎわう冬のニセコ地区のイベントに参加し、縄文文化に触れていただく「まが玉づくり体験」を行いました。多様な国籍や年齢の方々にお越しいただき、地域固有の異文化に関心を持っていただく良い機会になりました。

■「おしま交流人口拡大促進事業（スポーツ合宿）」（地域経済に関連する取組）



北海道新幹線開業による更なる人口交流の拡大を目的に、市町等の広域的な連携によるスポーツ合宿受入体制の構築支援を行っています。

渡島西部 4 町スポーツ合宿誘致協議会（松前町、福島町、知内町、木古内町）を設置し、4 町の基礎資源調査の実施や合宿の専門家によるアドバイスを受けながら、今後のスポーツ合宿誘致に向けた基本構想を策定するなど、取組を進めました。

檜山振興局

■檜山地域における新幹線観光対策事業（地域経済に関連する取組）



北海道新幹線開業を生かし、檜山地域への観光客の流入促進及び経済波及効果を楽しむことができるよう、檜山地域の食の磨き上げ、販路拡大及び観光振興に取り組んでいます。

9月～10月にかけて、レンタカーで旅行する観光客を対象とした周遊観光のモニターツアーを実施し、着地型観光商品の磨き上げなどに活用しているほか、首都圏や東北圏における北海道物産展を活用した観光・物産プロモーションを実施しました。

■檜山地域企業立地促進事業（地域経済に関連する取組）

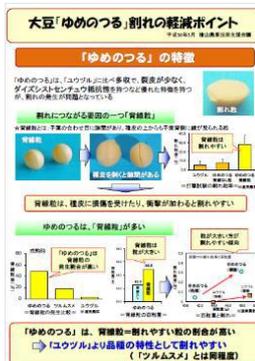


檜山地域の原材料（特産品）や空き物件情報などの立地資源を活かした企業立地活動の促進に取り組んでいます。

平成29年度は、管内の企業立地活動の課題や改善点を把握するため、地域の経済・雇用に寄与する立地企業及び本社・親企業等への訪問によるフォローアップを行いました。

また、檜山地域の企業立地環境に関する調査を行い、それら調査結果を基に「北海道ひやま地方企業立地ガイドブック」を更新しました。

■檜山農業生産力底上げ・人づくり推進事業（地域経済に関連する取組）



既存の高収益作物の生産性向上や新たな作物導入等により生産力の底上げを図るとともに、担い手の育成や新規就農の仕組みづくりに取り組んでいます。

平成29年度は、大豆「ゆめのつる」割れ対策の検討を行い、生産者向けのリーフレットを作成するなど、檜山の農作物の生産性向上による生産力の底上げを図りました。また12月には、女性農業者等の理解促進を目的に「農村女性フォーラム」を開催しました。

■みんなで学棒（まなぼう）檜山の木利用促進事業（地域経済に関連する取組）



道南地域特有の「スギ」の利用を道内に広く波及させるため、需要拡大に向けた検討や地材地消の推進に取り組んでいます。

平成29年度は、昨年度に引き続き、建築関係者などと地域材の新たな用途の検討などを進めるとともに、PRイベントとして、町の産業まつりと連携した道南スギのイスづくりを実施しました。また、地元の高校と連携し、乳幼児の発達を考慮した「木のおもちゃ」を生徒が考案し、保育園実習で活用する「地材地消講座」を実施しました。

檜山振興局

■ひやまの「稼ぐ漁業」ボトムアップ推進事業（地域経済に関連する取組）



檜山管内産水産物の価格向上に漁業者や加工流通業者等の関係者と連携して取り組み、漁業者の所得向上と地域経済の活性化を目指しています。

平成 29 年度は、神経締めなどの高度な鮮度保持技術による魚価の向上を目指し、魚類の鮮度保持技術講習会を実施しました。また、地元水産物の通年出荷体制を構築するため、乾燥ナマコ等の新たな商材の開発と、イベント出展等のPRを行い販路の開拓を進めました。

■「輝け地域おこし協力隊！交流連携プロジェクト事業」（地域経済に関連する取組）



交流人口の拡大を目的として、地域おこし協力隊等への支援と、「津軽海峡交流圏」の連携促進事業に取り組んでいます。

平成 29 年度は、地域おこし協力隊研修会、セミナーを開催し、隊員等の地域力向上を図ったほか、渡島・下北・津軽の三半島の伝統芸能祭を江差町で開催しました。

本事業により、津軽海峡交流圏の地域づくり団体による自主的な交流活動や、それをきっかけとした個人旅行が見受けられるようになっています。

上川総合振興局

■「道北地域交流人口拡大推進事業」(地域経済に関連する取組)



交流人口の拡大により道北地域の地域振興を図るため、北部においては天塩川、中部においては大雪山をテーマとして地域の魅力を発信するとともに、貴重で豊かな自然環境を保全する取組を展開しています。

天塩川フォーラムや松浦武四郎パネル展の開催、「天塩日誌現代語版」の発行などを通して、北海道命名150年との相乗効果による地域の魅力発信に取り組みました。また、自然観察会や登山道補修事業の実施を実施し、環境保全等に対する意識の醸成を図りました。

■「食」や「食文化」を観光資源とするフードツーリズム推進事業」(地域経済に関連する取組)



上川総合振興局では、地域が連携し「食」や「食文化」のチカラで誘客を図る「フードツーリズム」の推進に取り組んでいます。

その一環として、生産者を中心として異業種交流会を年4回開催し、生産者と料理人のコラボレーションやフードツーリズムの担い手が誕生しました。また、生産農家・食品開発者の思いをさらに掘り起こし「かみかわ食べものがたり」としてホームページやSNS等により情報発信を行っています。

■「持続可能型上川農業確立推進事業」(地域経済に関連する取組)



今後の人口減少に対応した持続可能な農業を確立するため、水稻や園芸作物の低コスト省力化技術や収益性の高い新規作物の導入などを検討しています。

また農業従事者の高齢化や農家戸数の減少により1戸当たりの経営面積の拡大が進んでいることから、農業分野における軽労化対策についても取り組んでいます。

■「地域森林資源利用推進プロジェクト事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



林地未利用材を有効活用した木質バイオマスのエネルギー利用促進や道産材家具の利用を拡大することにより、地域の資源管理体制を構築し、山村地域の活性化を図っています。

地域内での集材・流通方法の効率化に向けた取組や低コストなボイラーの普及PRなどを行ったほか、広葉樹資源の利用に向けて、ケヤマハンノキの強度等基礎性能分析並びに造作用材への有効利用を検討する材質評価試験を実施しました。

上川総合振興局

■「かみかわ地域産業担い手対策事業」(地域経済に関連する取組)



地域を支える産業(農業・林業・商工業)の担い手・後継者を確保・育成するため、産業別の課題に応じた取組を進めるとともに、道外に向けて上川地域の魅力をPRしています。

平成29年度は大都市圏に向けたPRとして東京都内で移住セミナーを実施したほか、旭川農業高校等において農業・林業学習会を実施、新規就農者に対し農業経営に係る講演や交流会を実施しました。さらに管内関係機関と連携し、事業者向けセミナーや個別相談会を実施、事業継承に係る早期検討促進を行いました。

■「上川地域づくりコミュニティ創出事業」(地域経済に関連する取組)



管内の広域的な人的ネットワークづくり等を目的として、将来を担う市町村及び各種団体等の若手が意見や情報の交換を図る学ぶ場の設置等、自由な発想で上川の未来を創り出すため「かみかわ未来会議」を上川北部・中部・南部で開催した他、3地区の参加者を対象に旭川市内で全体会議を開催しました。

また、平成32年度までに全ての小中学校でコミュニティ・スクールの導入が努力義務化されたため、本制度の先進地である東神楽町でセミナーを開催しました。

■「スポーツ合宿ブランド化推進事業」(その他)



2020年の東京オリパラの開催を控え、スポーツ合宿誘致の機運が高まっていることから、スポーツを通じた社会参画や上川管内がスポーツ合宿やイベントに適した環境であることを多くの人にPRしており、その1つとして平成29年12月20日に冬季バンクーバーパラリンピックパラアイスホッケー銀メダリストの永瀬充氏と冬季オリンピックフリースタイルスキー代表の逸見佳代氏を招き「スポーツから学ぶ人との交流」フォーラムを開催しました。

■「大雪の魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



大雪カムイミントラ DMO の設立やインバウンドの増加、さらには日本ジオパークや日本遺産の認定に向けた取組など「大雪山」を活用した産業振興の機運が高まりを見せており、振興局では当該 DMO 設立記念フォーラムや観光事業者を対象としたビジネスマッチングの開催、さらに大雪圏域における魅力発信や来訪者調査事業など DMO や関係団体と連携し、大雪山ブランドを活用した産業振興の取組を進めました。

留萌振興局

■「るもいの豊かな海と森を育む事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



留萌地域の豊かな水産資源や森林資源を持続的に有効活用し、地域の産業振興や雇用確保を図るため、関係機関と行政が連携し、海と山が一体となった取組や新たな販路拡大の仕組みづくりなどを行っています。

平成 29 年度は、天売島で森と海的环境教育を実施したほか、島内の木材を有効活用する薪ストーブを設置しました。また、留萌産トドマツ材の利用拡大に向けたセミナーの開催、木質ペレットストーブの燃焼展示や貸出、木工体験などを実施しました。

■「留萌健康産業展開促進事業」(地域経済に関連する取組)



「食と健康」を基盤に、留萌地域の特性を活かした健康産業の展開と確立を図るため、地域資源の活用や地域住民等の連携による各種プロジェクトを進めております。

これまでに、地域住民の健康意識の向上と地産地消を促す「るもい健康スムージー」のPR活動や、NPO法人等と連携した「留萌エディブルフラワー(食用花)」や「苫前町ハマボウフウ」の普及啓発、販売に対する支援といったコミュニティビジネスの推進等に取り組んでいます。

■「るもい産業担い手支援モデル事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域の担い手確保対策として、就農希望者への情報発信、地域一体となった担い手の育成・確保の推進、地域おこし協力隊に関する活動支援を行っています。

平成 29 年度には、就農希望者等を対象にした相談会への出展や地域おこし協力隊を対象にした意見交換会などを実施するとともに、商工分野においては、専門家派遣や商談会出展等により、経営相談や既存商品の販路拡大、新商品開発などに対し、多岐にわたる支援に取り組んでいます。

■「るもい地域戦略的魅力創造発信事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域の知名度の向上と、札幌や旭川などの都市部からの観光客の誘客促進を図るため、管内 8 市町村と連携し、札幌市の地下歩行空間で「オロロンラインプレゼント♪冬のるもい大物産展 in チ・カ・ホ」を開催したほか、旭川市で開催された「地場産フェア」に参加し、留萌地域の食と観光のPRを行いました。

また、旅行者や旅行雑誌の出版社などへ向けたセールス活動のほか、増毛山道のモニターツアーなども行い、留萌地域の交流人口の増加に向け取り組んでいます。

留萌振興局

■「るもい“農”フル活用推進事業」（地域経済に関連する取組）



留萌地域は、道内有数の良食味米産地で、生産者の努力により「留萌管内産米」は、高い評価を受けています。更なる農業所得の安定確保を目指し、水稻の低コスト栽培技術の確立や転作作物（小麦・大豆など）の品質向上に取り組んでいます。

また、南るもいエリアのみで生産されているパスタ適性の高い超強力小麦粉「RuRu Rosso」を広くPRするため、地元農水産物を活用したパスタソースのレシピコンテストを開催しました。今後も引き続き小麦の安定生産や販路拡大に向けた取組を行っていきます。

■「るもい暮らし魅力発信（移住・定住促進）事業」（その他）



留萌地域の知名度アップと体験移住の利用促進を図るため、地域の魅力を一体的に発信する取組を管内市町村と連携して行っています。

管内市町村の体験プログラムや体験移住用住宅などの情報をまとめたパンフレット「るもい管内移住ガイド2017」を作成・配布したほか、首都圏での移住イベント等において、北海道への移住希望者を対象に地域の情報発信や個別相談を実施しました。

■「豊かな恵みを活かす水産業の振興支援事業」（地域経済に関連する取組）



留萌地域のホタテガイ養殖業の持続的発展を目指し、漁業者、民間企業、行政機関などが連携し、生産工程の効率化や就労環境の改善に向けての取組を推進しています。

事業では生産工程の現地調査を行い、作業における問題・課題について検討会を開催し、機械化・省力化の可能性を協議するとともに、作業従事者の労力軽減のための試験を行うなどの取組をしています。

■「増毛山道推進事業」（地域経済に関連する取組）



増毛山道は、幕末期に浜益～増毛間に開削された山道ですが、戦後、利用者の減少で山中に埋もれていました。平成21年に復元事業が始まり、平成28年10月に全線27kmの再生が完了したことから、歴史遺産としての価値の周知と、利活用の促進を図るため、(NPO)増毛山道の会等と連携した取組を推進しています。

平成29年度は、6月に札幌駅前地下歩行空間において実施した開通記念フォーラムに500名以上の来場者があったほか、8回実施したトレッキングには、約150名の参加がありました。

留萌振興局

■「天売島におけるあざらし対策事業」（その他）



春先（4月～6月）の天売島は、ゴマフアザラシの来遊とカレイ類の漁期が重なり漁業被害が多数発生する一方、ウミガラスなどの希少な海鳥の繁殖期が重なるため、海鳥の繁殖に影響を与えない捕獲手法を試行する取組を行っています。

平成29年度は、天売島の白磯地区とゴメ岬周辺で、海鳥の繁殖に影響を与える装薬銃は使用せず、アザラシ用に改良されている刺網を用いた捕獲を試行しました。

今後も新たな刺網改良や捕獲手法の検討を行っていきます。

宗谷総合振興局

■ てっぺん宗谷へ！コラボDE移住・担い手対策事業（Act1、3）（地域経済に関連する取組）



当管内は就職や進学を契機とした若年層の社会減が著しいことから、管内の高校生を対象に、地域の人や仕事の魅力を再認識する「宗谷ひと図鑑」の作成や地域おこし協力隊の地域への定着を促す取組、移住プロモーションなどを行っています。

今後も宗谷管内の人口減少の進行を緩和するため、地域の一次産業を中心とした魅力発信や移住・定住を促す取組を進めるなど、人口流出の抑制及び管内への人口流入の促進を図ります。

■ 「最北端・宗谷の『シヨク×タビ』プロジェクト形成促進事業」（地域経済に関連する取組）



宗谷地域における食と観光の企業間連携や販路拡大、道内外からの観光客の誘客促進を図るため、特産品販売や観光PRなど食と観光の一体的なプロモーションを実施しています。

札幌市内の道産品を取り扱う店舗のほか、首都圏のホテルや飲食店などで「宗谷の『シヨク×タビ』フェア」を開催し、管内事業者による特産品の販売や管内のご当地キャラクターによる宗谷の観光PRを実施しました。

■ 「国境を越えた交流 海外との経済交流促進事業」（地域経済に関連する取組）



ロシア・サハリン州との物流・観光促進を図るため、サハリン州でのイベント開催や外国人観光客向け周遊促進ツールの製作等を行いました。

サハリンでの北海道フェアに参加し、道産品の販路拡大に努め、宗谷の特産品も販売、併せて、現地旅行代理店や食品バイヤーを訪問し、旅行商品の提案や商談を行いました。また、極東経済セミナーを開催したほか、サハリンからの誘客及び宗谷管内の周遊促進を目的にロシア語版広域パンフレットを製作しました。

■ 「アザラシ対策事業」（地域経済に関連する取組）



近年、ゴマフアザラシによる漁業被害が増加していることから、漁業被害の軽減を図るため、夏期にも現地にとどまっている周年定着個体の減少に向けた取組を行いました。

宗谷岬周辺では、観光への影響や漁業者の操業との兼ね合いから、銃器による捕獲が困難なため、銃器を使用しない捕獲手法の検討や、捕獲体制の構築を目指して、刺し網による捕獲を試みました。

宗谷総合振興局

■「持続可能な酪農経営の確立と生産基盤強化対策事業」(地域経済に関連する取組)



宗谷管内は、道内有数の酪農地帯であり、広大な耕地面積を活かした大規模な草地型酪農が展開されています。近年は、離農農家の草地引き受けなどにより1戸当たりの草地面積が増加し、適切に草地を管理できない状況が散見されます。

平成29年度は、全酪農家を対象とした実態調査や余剰牧草の有効活用事例調査等の結果を資料にまとめ、農業者や関係団体へ配付するとともに、報告会を行い、効率的で良質な牧草生産に向けた啓発を進めました。

■「てっぺん宗谷へ！コラボDE移住・担い手対策事業 (Act2)」(地域経済に関連する取組)



宗谷地域では、農業の担い手不足が深刻化しているため、地元の農業者や関係機関と連携し、地域や農業の魅力を積極的にPRしています。

平成29年度は、宗谷総合振興局の初の取組として、道内外の都市部の大学生を対象に「北海道宗谷酪農体験ツアー」を実施し、参加した9名の学生達は約1週間の日程でファームステイを通じた酪農実習を行いました。本ツアーがきっかけとなり、冬に再来する学生や、翌年管内に就職する学生もありました。

■「若手の力で宗谷をかえる！「SOYA fresh☆network」事業」(地域経済に関連する取組)



若手世代の資質向上及び連携体制の構築を図り、宗谷地域を一層発展させることを目的として、宗谷管内の市町村及び団体・企業の若手職員が集まり、地域課題を共有し、その解決に向けて話し合う研修会などの取り組みを行っています。

研修会は、平成29年度末までに計5回開催し、延べ326人が参加しました。

また、研修会のほかにもFacebookを活用し、宗谷の情報発信を行っています。

オホーツク総合振興局

■「オホーツク地域来訪推進事業」（地域経済に関連する取組）



オホーツク管内への交流人口の増加や地域の観光産業の活性化を図るため、食や観光をはじめとしたオホーツク地域の魅力を広く発信する取組を実施しています。

チ・カ・ホ（札幌駅前通地下広場）での市町村・オホーツク観光連盟や各観光協会等関係団体などと連携した「オホーツクフェア 2018」の開催や大通ビッセでのオホーツク観光ポスター展を実施しました。

■「人口減少社会を見据えたオホーツク A I 推進加速事業」（地域経済に関連する取組）



オホーツク地域の魅力を発信し、交流人口の増加と将来的な移住定住の促進を図るため、市町村やオホーツク A I 推進協議会と連携した、オホーツク地域の P R を実施しています。

東京都内において「北海道・オホーツクウィーク」を開催し、オホーツクへ移住した一次産業の担い手や地域おこし協力隊による移住セミナー及び個別相談会を実施しました。

また、オホーツク地域の各種イベントをゆるキャラにより盛り上げるとともに、SNSによる情報発信を行いました。

■「クールオホーツク推進事業」（環境・エネルギーに関連する取組）



地球温暖化対策と地域活性化に向けた取組を地域が一体となって推進することを目的に、エコでクールなライフスタイルへの転換と地域ブランド色である「オホーツクブルー」の活用を促す「クールオホーツク」の取組を展開しています。

この趣旨に賛同する企業・団体においてポスターやのぼり旗を掲示したほか、7～8月の毎週水曜日をクールオホーツクの日として設定し、「オホーツクブルー」を基調としたシャツの着用を啓発するなど関係機関と連携した取組を行いました。

■「オホーツクスポーツ合宿ブランド化推進事業」（地域経済に関連する取組）



夏は冷涼で日照時間が長いといったオホーツク管内の優れた気候特性を活かし、スポーツを通じた地域活性化を図るため、スポーツ合宿誘致の取組や合宿参加チームのお出迎えを実施しています。

各競技団体への P R 冊子の配布や、女満別空港やオホーツク紋別空港における市町村と協力した合宿参加チーム 9 団体のお出迎えを行いました。

オホーツク総合振興局

■「世界自然遺産「知床の日」の発信・浸透事業」(地域経済に関連する取組)



冬の知床への関心を高め、冬期間の来訪者の増加を目的として、豊かな生態系を支える「流氷」を通して知床の価値を改めて考える「知床の日(1月30日)」の浸透を図る取組を実施しています。

斜里町の世界遺産センターや羅臼町のビジターセンター等に立ち寄る来訪者に直接「知床の日」の意義をアピールするスタンプラリーを実施しました。

■「オホーツク食の地域ブランド形成事業」(地域経済に関連する取組)



「オホーツク」のブランド力向上のため、地域資源を活かした多様な製品の情報を道内外に発信しています。

東京・代々木公園で開催された「北海道フェア in 代々木」や、札幌市内で開催された「オホーツクフェア 2018」において、オホーツク管内製品の試食販売をはじめ、観光との連携によるグッズの展示販売など、オホーツク地域のPRを実施しました。

■「スイーツ王国オホーツク・ブランド推進事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツクブランドの推進と地域産業の活性化に向けて、オホーツク管内の菓子製造業者等と連携して、オホーツク産農畜産物を使ったスイーツを開発し、オホーツクの魅力の発信に取り組んでいます。

菓子製造業者とオホーツク管内の大学生が連携を図り、札幌で開催した「オホーツクフェア」や特急列車(オホーツク号・大雪号)の車内におけるオホーツクスイーツの販売、「FOOD EXPO 北海道」商談会内におけるPRを実施しました。

■「オホーツク畑作経営体質強化促進事業」(地域経済に関連する取組)



広大な土地資源を活かした大規模な畑作が盛んなオホーツク管内において、相対的に作付けが少ない豆類の作付けを拡大するため、関係機関と連携し、管内の気候に適した新品種や新たな栽培法の試験に取り組んでいます。

豆類の作付け拡大や管内産豆類の商品化のため、関係機関と連携し、作付の実証試験や現地研修会などを実施し情報共有を図りました。

オホーツク総合振興局

■「Made in オホーツク輸出推進事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツク地域の産業活性化を図るため、オホーツク産の安全・安心で高品質な農林水産物の優位性を生かした海外マーケットに対する販路拡大に向けた取組を実施しています。

「輸出拡大セミナー」及び「輸出個別相談会」を開催し、生産者、生産団体、食品関連事業者等を対象に、海外における道産食品のニーズや輸出のポイントの解説、輸出全般の最新情報や全国の注目事例を紹介するとともに、輸出に際して障害となっている課題・問題点の解決を図りました。

■「農業女性ステップアップ事業」(地域経済に関連する取組)



農業や地域活動の担い手として重要な役割を果たしている女性の経営参画や経営資質の向上を目的に、農業経営や農業生産技術を習得する場の提供に取り組んでいます。

オホーツク管内の3地域において、多様な女性農業者のニーズに応じた魅力ある研修メニューを検討するため、支援会議を開催し、設定したカリキュラムにより農業経営や農業生産技術を取得するセミナーを開催しました。

■「オホーツク産森林認証材利用促進事業」

(地域経済に関連する取組/環境・エネルギーに関連する取組)



持続可能な森林経営を進めるための取組である森林認証制度を推進することを目的に、オホーツク地域の森林認証材の利用促進及び森林認証の認知度の向上に向けた取組を実施しています。

東京都内で開催された「ジャパンホーム&ビルディングショー2017」や「WOODコレクション2018(モクコレ)」に出展し、首都圏の需要者に対してオホーツク産森林認証材をPRしました。

■「オホーツク若年層地域定着支援事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツク地域の基幹産業である農林水産業における若年層新規就業者の確保・定着を目的に、大学生が農林水産業の現場を経験することで“やりがい”や“魅力”を感じてもらう取組を実施しています。

オホーツク地域の大学生を対象としたインターンシップを実施し、参加した大学生からは、「農林水産業に対して興味が大きくなった」「林業を就職の選択肢の一つとしたい」など農林水産業への就業に前向きな感想がありました。

オホーツク総合振興局

■「管内産秋さけEU向け輸出促進事業」（地域経済に関連する取組）



オホーツク管内の重要魚種である秋サケの魚価の安定化を図るために、中国以外の輸出先を増やす取組を実施しています。EUへの輸出促進に向け、EU基準を踏まえた課題等を整理するための現地調査や講習会を開催し、EUへの出荷対応の港は、管内で平成28年度までは網走港の1港のみでしたが、平成29年度からはウトロ漁港、平成30年度からは斜里漁港の3港が実施することになりました。

■「オホーツクイメージ形成・発信プロジェクト」（地域経済に関連する取組）



オホーツク地域の認知度向上及びイメージアップを目的に、平成29年に設立された管内18市町村で組織する「オホーツクイメージ戦略推進委員会」と連携し、オホーツクイメージの形成を図っている他、地域が一体となって「オホーツク」の魅力を発信していけるよう地域の意識醸成に取り組んでいます。

その一環として首都圏での移住フェアや札幌市での「オホーツクフェア2018」において、ノベルティの配布などによるPRを行いました。

十勝総合振興局

■「元気な十勝！「食と観光」復興加速化事業」（地域経済に関連する取組）



平成28年8月の台風被害からの復興の加速化に向け、十勝の強みである「食」や「観光」を最大限活用した取組を実施しました。10月には、東北最大都市・仙台で開催された「第20回みちのくYOSAKOIまつり」に出展し、十勝の食と観光のPRを行ったほか、2月には、メディア関係者をお招きし、十勝の食と観光を実際に体験していただき、SNSを通じ復興状況や十勝の魅力などについて情報発信をしていただきました。

■「とちかち「牛肉」ブランド輸出拡大推進事業」（地域経済に関連する取組）



国際貿易情勢により輸入牛肉の増加による国産牛肉への影響が懸念される中、十勝産牛肉を中心とした管内農畜産物の海外販路拡大、十勝産牛肉のブランド力向上の取組を行い、管内経済を支える酪農・畜産業の持続的発展の促進を目的に、課題解決に向けた検討やPRを関係機関と連携して行っています。

十勝産牛肉輸出のニーズ把握や全国のブランド化・差別化の取組調査とその成果の関係者への周知、各種イベントでの牛肉PRにより、輸出に向けた機運醸成を図っています。

■「とちかち地域資源活用・価値創造事業」（環境・エネルギーに関連する取組）



十勝管内に存在する豊富なバイオマス資源等を利用した再生可能エネルギー活用の取組を地域の住民に周知し理解を促すとともに、利活用の促進を図るための取組を実施しています。

平成29年度は、未来を担う高校生を対象に再生可能エネルギー施設見学研修を行い、鹿追町のバイオガスプラントと関連施設の見学等を実施しました。また、11月、1月、2月の環境関連イベントでは、環境体験教室を開催したほかパネル展の実施やゲーム等を通じて、普及啓発活動を行いました。

■「とちかち自然の魅力アップ観光推進事業」（地域経済に関連する取組）



大雪山系トムラウシ山は、日本百名山の1つであり、美しい景観にあこがれた多くの登山客が、道内外はじめ海外からも多く訪れる道東を代表する観光資源ですが、山頂付近に指定された野営地において、利用者の排泄物やティッシュペーパーが大量に放置され「全道一汚い山」といわれています。この問題を解決するため地元山岳会や地元住民と共に、山では携帯トイレを利用することを登山者に普及するマナーアップ運動や、荒らされた植生を回復させる事業などを実施し、山岳環境の保全に取り組んでいます。

十勝総合振興局

■「生産量NO. 1十勝スイートコーンクライシス！アライグマバスターズプロジェクト事業」 (地域経済に関連する取組)



外来種であるアライグマの捕獲数が十勝管内で急激に増加しており、緊急に対策が必要な状況となっています。アライグマはたくさんの病原菌を保菌しており、農業被害や病気の媒介などが問題となっています。繁殖力が強く生息域が一気に拡大するため、早急な対策を怠ると捕獲コストが増大してしまいます。地元猟友会や市町村、大学などの研究機関と共に、アライグマの捕獲対策を進め、捕獲効率アップのための研究や、地域一帯となった捕獲の推進、地域住民への注意喚起を進め、被害を未然に防ぐ取組を実施しています。

■「十勝地域における航空宇宙関連の取組推進・普及加速事業」(地域経済に関連する取組)



十勝管内大樹町においてインターステラテクノロジズ株式会社が日本で初めてとなる民間宇宙ロケットの打上げ実験を平成29年7月29日に実施し、航空宇宙関連の取組が盛り上がりを見せています。そのような中、十勝地域では「宇宙日本食」の開発を進めるため、JAXAから専門家を招聘し、平成30年3月1日に「とちかち宇宙日本食開発セミナー」を開催しました。日本最大の食料基地としての強みを活かしながら、航空宇宙関連の取組の一環として、食品の加工技術向上にも取り組んでいます。

■「輝らっ！とちかち女性活力（ジョカツ）創造事業」(地域経済に関連する取組)



女性が地域で活躍可能な社会の創造に向け、女性のキャリアアップや起業支援などについて取り組んでいます。

企業等で働く女性が、より働きやすくその能力を発揮するためには、企業の制度や職場環境を整えることが不可欠であることから、講演やパネルディスカッション等を通じて先進事例を学んだほか、「自分のやりたいこと」を実現でき、イキイキと活躍できるよう、トークイベントや参加者と交流するセミナーを開催しました。

釧路総合振興局

■「オールくしろ魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



くしろ地域では、道東自動車道のくしろ延伸を契機に交流人口を拡大し地域の活性化を図るため、平成25年度に官民一体となった協議会を設置し、オールくしろ体制で地域の魅力発信に取り組んでいます。

平成29年度は、7～8月にかけて札幌で開催されたイベントに出展したほか、冬季の魅力を紹介する公式WEBサイト「くしろ冬旅GUIDE」を1月に開設し、1～3月にかけて新聞にシリーズ広告を3回掲載するなど、道央圏や十勝圏を主な対象に、道東自動車道のくしろ到達とくしろ地域の食・観光PRを行いました。

■「道東くしろ誘客促進事業」(地域経済に関連する取組)



くしろ地域では、平成28年3月に道東道が延伸(阿寒IC開通)した効果もあり、観光入込客数が増加傾向にあります。

その流れを止めることなく、より多くの方々にくしろ地域を知ってもらい、訪れていただくため、多言語対応の観光情報ホームページ「GO KUSHIRO」を活用したくしろ地域の自然や食の魅力発信、SNS(Facebook)を活用した情報発信、首都圏や関西など各地での観光プロモーションなどの取り組みを行っています。

■「輝ける北の大地で羽ばたく根釧酪農チャレンジング事業」(地域経済に関連する取組)



根釧地域は我が国最大の酪農地帯であり、地域の事業者は、地域で生産した生乳を使用したチーズやスイーツなど、乳製品の6次産業化を進めています。

釧路・根室振興局では、根釧産乳製品の高付加価値化と海外への販路拡大推進のため、台湾向けバイヤーなどを招へいた根釧地域のモニターツアーの開催や首都圏での乳製品PR等を行い、根釧の魅力を発信することができました。

今後も販路拡大に向けた取組を実施していきます。

■「くしろ」移住・定住推進事業」(地域経済に関連する取組)



「くしろ地域」の持続的発展に向け、交流人口の拡大及び移住・定住による人口の増加を図るため、管内市町村と連携して都市部の現役世代などに向けて、地域の魅力発信の強化を行っています。

市町村の移住・定住関連情報を網羅的に取りまとめたパンフレットを作成し、都市部で開催される移住交流イベント等で配布するなど、くしろ地域の情報発信や移住相談会を実施しました。

根室振興局

■「少子・高齢社会における子育て支援事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



地域が一体となって、安心して子育てできる環境を整え、子育て世帯の負担軽減を図ることを目的に、地域連携による子育て支援に取り組んでいます。

地域における催しの場を活用した取組紹介やアンケート調査を通じて、子育て支援に係る意識醸成やニーズ把握を行ったほか、中標津町計根別地域においては、行政・団体が、それぞれ可能な役割を分担しながら、子どもの一時預かりや親子サロンを実施しています。

■「根室地域医療従事者確保事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



根室地域において、慢性的に不足している医療従事者を確保していくため、地域医療を担う医療系学生などに地域の魅力を発信するとともに、関係機関の連携により、地域の受入体制の構築などに取り組んでいます。

平成 29 年度は、医療系教育機関 11 校への訪問、道の駅・宿泊施設・空港の観光案内所・観光施設などへのチラシ設置やホームページなどにより根室地域での居住に少しでも関心を持っていただくための情報発信を行いました。

■「輝ける北の大地で羽ばたく根釧酪農チャレンジング事業」(地域経済に関連する取組)



根釧地域は我が国最大の酪農地帯であり、地域の事業者は、地域で生産した生乳を使用したチーズやスイーツなど、乳製品の 6 次産業化を進めています。

釧路・根室振興局では、根釧産乳製品の高付加価値化と海外への販路拡大推進のため、台湾向けバイヤーなどを招へいた根釧地域のモニターツアーの開催や首都圏での乳製品 PR 等を行い、根釧の魅力を発信することができました。

今後も販路拡大に向けた取組を実施していきます。

■「根室水産物ブランド化推進事業」(地域経済に関連する取組)



ロシア水域におけるさけ・ます流し網漁業が禁止されたことにより、代替漁業で漁獲されるサバ類・マイワシや、加工原料をサケ・マスから国産原料へ転換したことに伴う新商品などの PR を行い、根室地域水産物のブランド化に取り組んでいます。

平成 29 年度は、札幌の量販店で根室産マイワシを鮮魚販売、東京の商店街では根室産マイワシの加工品販売を行うとともに、根室産マイワシの特徴や調理法を紹介するリーフレットを配布しました。

根室振興局

■「ねむろ食の商品力強化事業」(地域経済に関連する取組)



根室地域で生産される商品の付加価値を向上させるために、専門家の知見を活用し、根室地域の食のブランド力を高め、販路拡大を図ってきました。また、消費者向けイベントや商談会などの支援も行っています。

マーケティングの専門家を招聘し、販売戦略のセミナーや個別相談会を実施しました。また、北海道どさんこプラザで、根室産品をPRする「ねむろフェア」を実施するとともに、東京で開催された商談会への出展を支援しました。

■「千島桜ねむろプロジェクト推進事業」(その他)



元島民の高齢化による北方領土返還要求運動の衰退が懸念される中、「千島桜」マークを使った啓発活動と「ねむろ」管内の食を活かした取組を連動させて、広い世代に返還要求運動の訴求を図る取組を実施しています。

(公社)北海道倶楽部と連携して、交流イベントでの管内加工品の試食会や広報紙「北海道“NOW”」での事業PRを行ったほか、協力企業とその商品を掲載したリーフレットを作成し、首都圏の産直フェア等で配付しました。

■「移住交流の促進に向けたねむろの魅力発信事業」(その他)



移住希望者を管内に呼び込むために、移住希望者への働きかけや地域の魅力発信を行うとともに、「釧路・根室管内地域おこし協力隊ミーティング」や管内の関係機関で構成する「移住・定住推進連絡協議会」を開催するなど、交流人口の拡大に向けた取組を行っています。

平成30年3月には、東京にて「北海道ねむろ地域 移住セミナー&相談会」を開催し、移住者の体験談や農林業に係るセミナー、個別相談会などを通して根室管内の魅力をPRしました。

■「ねむろ観光交流推進事業」(地域経済に関連する取組)



観光における交流人口増加を図るため、豊かな自然、地域の産業・文化などと調和した広域的な観光地づくりを推進する取り組みを進めています。

道東4振興局合同(十勝・釧路・オホーツク・根室)で道内外でプロモーションを行うなどの道東一体となった取り組みやフットパスのイベントやセミナーを開催するなど地域資源を活かした体験観光の取り組みを進めています。

根室振興局

■「戦後70年“忘れてはいけない物語”～次世代への北方領土返還要求運動継承事業」 (その他)



北方領土問題が発生してから70年以上の年月が経過していることから、根室管内に残されている北方領土にゆかりのある建築物、文書・図画や、埋もれているエピソードなどを北方領土遺産として掘り起こし、「忘れてはいけない物語」として、後世に伝えることを目的に取り組みました。

リンドバーグ夫妻の太平洋横断飛行とそれに貢献した落石無線電信局に焦点を当てた展示会や旧ソ連軍の北方四島上陸に関する資料を調査し当時の状況を紹介します展示会を開催しました。

■「自然と食の魅力あふれるオール根室ブランド強化推進事業」(地域経済に関連する取組)



知床ねむろ地域は、世界自然遺産遺知床やラムサール条約湿地「野付半島」「風蓮湖・春国岱」など、豊富な自然に恵まれており、この地域の特性や資源を生かした修学旅行、大学ゼミの誘致やガイドの養成などの取り組みを進めています。

修学旅行誘致のモニターツアーや旅行会社との連携協定の推進のほか、地域の魅力を再発見する大学ゼミ研究発表会を開催いたしました。今後も地域ブランド強化のための取り組みを行っていきます。